

2630 地区 国際奉仕小委員会 卓話 2017.02.01

奉仕プロジェクト部門アドバイザー 高井文洋

皆さんこんにちは。本日は 岐阜北ロータリークラブさんの、貴重な例会の卓話に、お招き頂きありがとうございます。私は奉仕プロジェクト部門のアドバイザーをしております美濃加茂 RC の高井文洋です。本来ならば委員長の篠原が来るべきところ 2代前に委員長の私がピンチヒッターで参りました。久しぶりのお話で少し緊張していますが、宜しくお願ひ致します。

最初に私の事を少しだけ紹介させて頂きます。市長の件で有名になっております美濃加茂の地で犬猫病院をしております。毎日生傷の絶えない日々を過ごしており けして飲み屋のお姉ちゃんを口説く時に受けた傷ではありません。

さて、私共地区の奉仕プロジェクト部門・国際奉仕小委員会のお話しを先にさせて頂きます。今まででは社会奉仕部門委員会と国際奉仕部門委員会でしたが、本年度（剣田ガバナーアイド）より奉仕プロジェクト部門を頭に、社会奉仕小委員会と国際奉仕小委員会になりました。国際奉仕小委員会の活動内容は、大きく分けて三つです。

一つ目は、地区内 77 クラブに対して、世界の恵まれない人々への支援をしようと言う、ロータリーの国際的奉仕活動を、ご理解頂き、積極的にそれを実践しようと、各クラブに勧めることです。各クラブで「ロータリーの国際奉仕活動」について、卓話をし、また地区協の分科会において、各クラブの国際奉仕関連の委員の方々に参加して頂いて、地区内の各クラブからの活動事例等を聞いてもらい、各クラブの国際奉仕活動を、計画して頂くようにお願いすることです。

二つ目は、地区内のクラブが取り組んでいる、また取り組もうとしている国際奉仕プロジェクトに、資金援助が必要な場合、その申請を受け付け、企画・内容等の審査を行い、10万円程度を限度とする、補助金支給を行っています。この補助金は、地区内の会員全員から頂いています一人200円の拠出金で、成り立っています。約3,100名ですので約62万円、皆様からお預かりしたお金を大切に活用して、地区内77クラブから世界で良いことをしようと勧めています。

三つ目は、地区のロータリー財団委員会と連携して、各クラブにグローバル補助金を使った国際奉仕事業のアドバイスする事で

す。そのためにも本年度より委員会自ら実践を重ねて行こうとしているところです。国内34地区の中でもグローバル・グラントを沢山行ってみえます、北海道の東側の2500地区のパストガバナーからアドバイスを受けながら、国際奉仕活動を進めています。相手先はタイの3330地区、タイのリゾート地プーケットの東側のクラビーの小学校への水の浄水器贈呈活動です。グローバル補助金の条件は相手クラブがしっかりと取り組んでいるかどうか、修理や部品等の継続性、現地で調達できるかどうか、地域の人たちが広く恩恵を受けているかどうか、報告書が継続的に出されるかどうか、などなどと条件はなかなか厳しいです。

2630地区ではグローバル補助金が殆ど使われていません。今まで中津川RCさんくらいです。ブラジルでの未熟児保育設備です。社会奉仕小委員会がロータリー財団の地区補助金を利用した事業の推進を、国際奉仕小委員会がロータリー財団のグローバル補助金を利用した事業の推進を、色々なアドバイスができればと思います。

グローバル補助金に関しては6つの重点分野(平和と紛争予防、紛争解決・基本的教育と識字率向上・疾病予防と治療・水と衛生・母子の健康・経済と地域社会の発展)に関する事業であって、先

程もお話ししましたが、先方のロータリアンも携わって、地域の方々に広く恩恵が行き渡るかどうか、そしてしっかりと継続性があるかどうか、後の検証が可能かどうか、色々と制約はあります。

補助金の額は皆さん方ご存知の通りです。財団のグローバル補助金はクラブの拠出金に対してDDFが2倍ないし5倍(EREY年次寄付によって)そしてWFからDDFの同額を、そしてクラブ拠出金の半分がプラスされます。大きな金額になります。

補助金を使うにはどうしたらいいかではなくて、まずはこんな素晴らしい事業があるから、なんとか補助金を利用できないかと、何とかこんなニーズがあるからこんな事業を進めたいとか、補助金をどのように申請したらいいでしょうかとか・・・地区の委員会は色々なノウハウを持っています。勉強をしています。是非聞いて欲しいと思います。

我々国際奉仕小委員会としましては、規模の小さな国際奉仕事業には使いがっての良い地区のWCS補助金を、規模の大きな国際奉仕事業には、財団のグローバル補助金を利用して、地区内各クラブで「世界で良いことをしよう」というスローガンで、頑張って欲しいと思います。

話は戻りますが、私ども地区の国際奉仕小委員会の補助金がどのような事業に使われたか、少しお話しさせて頂きます。

国際奉仕小委員会はWCS(世界社会奉仕委員会)と時から、毎年様々な各クラブの国際奉仕関連の事業に、補助金を出してきました。具体的には、学校建設・教材学用品・井戸掘り・植林活動などの支援、また中古自転車・消防車・はしご車・救急車などの贈呈、奨学金の授与などです。支援先としては東南アジアと南アジアが圧倒的に多いです。どんなことをしたかは、圧倒的に教育関係や多種にわたる物資支援が多いです。国の発展や平和には、まず子どもの教育、そして識字率の向上にあると、皆さんが考えられた結果だと思います。最近の補助金の例（熊野・鳥羽・志摩・名張中央・可児・岐阜中・鈴鹿西）

「当委員会としては今後、広報活動にも力を入れていきたいと思います。皆さんの国際奉仕活動を地区HPやガバナー月信などで、紹介したいと思います。海外での奉仕活動と言うと何かと肩が張るものと考えがちですが、最近では本当に気楽に自分たちができる範囲で、海外奉仕活動を行って頂いていると感じます。」

さて、これまでの「ロータリーの特別月間」の国際奉仕関連と

言えば、2月の世界理解月間と、3月の識字率向上月間の年2回だけでした。ところが昨年度から、1年間で4回もの国際奉仕関連と理解できる「特別月間」が誕生しました。前期9月の「基本的教育と識字率向上月間」 12月の「疾病予防と治療月間」 後期2月の「平和と紛争予防、紛争解決月間」 3月の「水と衛生月間」です。

これは国際ロータリーが、個々のロータリアンに向けて、超我の奉仕を心がけるよう、望んでいると考えられます。

「平和と紛争予防、紛争解決」は「基本的教育と識字率向上」「疾病予防と治療」「水と衛生」「母子の健康」そして「経済と地域社会の発展」とともに、ロータリーの6つの重点分野の一つです。

今月は『平和と紛争予防、紛争解決月間』です
世界で約4,200万の人々が、武力紛争や迫害によって住居を失っています。武力紛争からの避難民の、約90%が民間人で、その半数近くは子供です。ロータリーは、奉仕プロジェクトやフェローシップ、その他の活動を通じて紛争を予防・解決し、危険地域を逃ってきた避難民を、援助する人たちに研修を提供しています。また、貧困・差別・民族間の摩擦、教育機会の不足・リソース分布の不平等などといった、紛争の構造的な原因を改善するプロジェクトを実施しています。

この問題を支援する活動の一つが、世界の有名大学に設置された「ロータリー平和センター」です。

世界で 6 か国（日本・アメリカ・イギリス・オーストラリア・タイ・スウェーデン）日本では国際基督教大学です。紛争や迫害により約 500 万人が難民となっている現在、平和のために活動する人材が必要です。ロータリー平和センターでは、紛争の予防や解決に必要な専門的スキルを教え、長期的な平和構築のために、活躍できる人材を育てています。年間約 100 名のフェローに、平和センターで学ぶためのフェローシップ（奨学金）も提供しています。卒業後は国際連合等の国際機関や、世界各地の NGO や政府組織など、その他平和と紛争予防や解決に携わる様々な分野で活躍しています。国際平和フェローシップ 42,000 人のうち 7,500 人が日本人です。

国際紛争とロータリーとの関係を、少しお話させて頂きます。1905 年にシカゴで誕生したロータリー、初期のロータリー運動が、急速に全世界に広まっていった背景には、全ての会員を平等に扱い、会員に差別感を抱かさなかつたことがあげられます。民族・国籍・宗教の差を超越して、ロータリアン相互の深い親睦と友情の関係を、作り上げることに重点がおかされました。多くの移民を抱え、様々な人種と宗教のあるアメリカや、多種多様な民

族が、入り交って多彩な生活様式を営んでいる、ヨーロッパにおいて、政治や宗教をロータリーの中に持ち込んで、その問題を議論したとしたら、ロータリーで育んだ友情も、たちどころに消え去ったことでしょう。

世界平和を実現するために、ロータリーが深く関与した特筆すべき活動として、国連の設立と国連憲章の制定があげられます。何度も聞かれたと思いますが、1945 年、サンフランシスコで行われた国連設立準備会には、合衆国国務省から要請を受けて、R I（国際ロータリー）から 11 名の顧問団が参画し、国連憲章の原案作製に当りました。その会合に出席した世界各国の代表のうち、7 名の委員長と 20 名の代表がロータリアンであり、代議員を合せると実に 49 名のロータリアンが、この作業に参加したと言われています。国際ロータリーを合衆国代表の顧問として、国連会議に招いたのは、ロータリアンが果たしてきた、これまでの効果的な役割を認めたからであり、またその役割を更に続けてもらいたいからです。

国際奉仕全般について、ロータリーで言う国際奉仕とは、国際理解・親善・平和を推進する為に、実施するロータリーでの全ての活動を言います。最初に行われた国際奉仕活動は、第一次世界

大戦中の 1917 年頃より、アメリカやカナダやヨーロッパのロータリークラブが、各地の避難民や疾病兵や、復員してくる軍人に対するボランティア活動や、物資の援助を行いました。また 2 度にわたる世界大戦を通じて、世界平和を願うロータリアンは、先程もお話ししましたが、49 名が国連憲章の原案作成作業に参加したと言われております。このことはロータリーの歴史の中でも、特筆すべき国際奉仕活動であります。

最後なりますが、当委員会の補助金の規模は小さいですが、とても使いやすい制度になっております。クラブの結束をもって是非利用して頂いて、地域また国境などの区別のない国際ロータリーの一員としての活動を、宜しくお願ひ致します。当委員会としても、できる限りの有効な支援を進めて行きたいと考えております。引き続き当委員会へのご理解・ご協力を願いし、本日の卓話とさせて頂きます。ご清聴ありがとうございました。